

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村]

TEL：0853-22-6908

FAX：0853-24-3342

平成22年度病害虫発生予察情報 注意報第2号

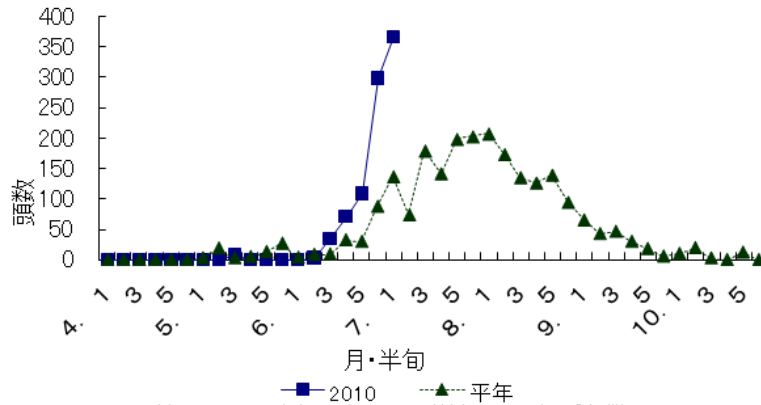
平成22年7月7日

島 根 県

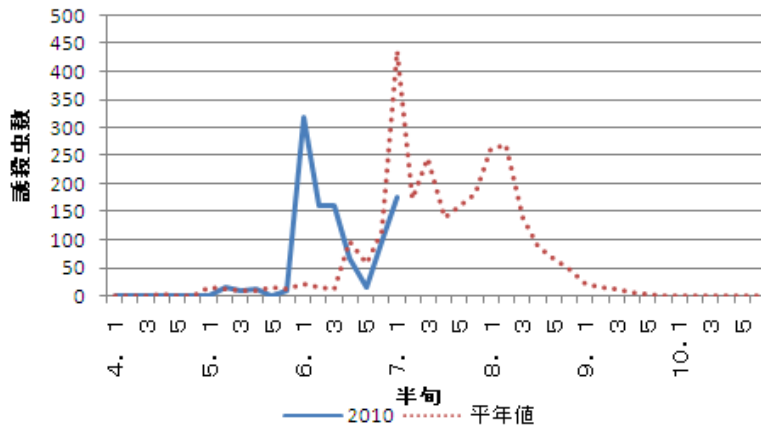
果樹を加害するカメムシ類の発生量が多く、カキ、ナシ、スモモなどで被害が多発生する恐れがありますので注意報を発表します。現地では発生状況の把握に努めるとともに、発生園では適切な防除対策を講ずるよう指導をお願いします。

記

1. 病害虫名 果樹カメムシ類
2. 発生地域 県内カキ、ナシ、スモモ栽培地帯
3. 発生時期 7月中旬～
4. 発生量 やや多い
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 予察灯(出雲市)でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数は平年に比べ多く推移している。特に6月第3半旬から7月第1半旬の合計が883頭(平年値296.5頭)と多く誘殺された(第1図)。
 - 2) チャバネアオカメムシの集合フェロモン(出雲市)における誘殺数は6月第1半旬から7月第1半旬までの合計が993頭(平年値696.6頭)と急増し、今後果樹カメムシ類の飛来、加害が活発化すると考えられる(第2図)。
 - 3) 6月中旬にスモモ果実で被害を確認したが、ナシ・カキ果実での被害は確認していない。今後カキや無袋栽培のナシなどで被害が発生する恐れがある。なお、有袋栽培のナシでも果実の肥大にともない果実袋を通して加害される恐れがある。
 - 4) 本年はスギ・ヒノキの花粉の飛散が平年に比べ少なく、毬果は少ないと予想され果樹園への飛来が平年に比べ早くなると予想される。
 - 5) ナシ(無袋)の摘果作業はほぼ終わっている。カキでは摘果作業が行われているが、果実の被害の有無に注意する。
6. 防除対策および防除上の注意事項
 - 1) 山間地や山沿いの園ではカメムシ類の発生加害が多いので特に注意する。
 - 2) カメムシはスギ・ヒノキの毬果で増殖し、果樹園に移動するので付近のスギ・ヒノキについても観察する。
 - 3) 薬剤の使用にあたっては、農薬使用基準ならびに本県農作物病害虫雑草防除指針を遵守する。



第1図 予察灯における果樹カメムシ類誘殺数



第2図 チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップによる誘殺数

7. 薬剤による防除

1) 種類および濃度使用基準 (平成22年7月1日現在)

薬 剤 名	カ キ		ナ シ	
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	3日前 / 3回		
アーデント水和剤	1,000倍	7日前 / 3回	1,000倍	7日前 / 3回
アグロスリン水和剤	1,000 ~ 2,000倍	前日 / 3回	1,000 ~ 2,000倍	前日 / 3回
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000 ~ 10,000倍	7日前 / 3回	5,000 ~ 10,000倍	7日前 / 3回
アディオン乳剤	2,000 ~ 3,000倍	7日前 / 5回	2,000倍	前日 / 2回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍	前日 / 3回	2,000倍	前日 / 3回
スカウトフロアブル	1,500倍	7日前 / 5回	1,500倍	前日 / 5回
スプラサイド水和剤	1,500倍	30日前 / 3回	1,500倍 (有袋)	7日前 / 3回
			(無袋)	45日前 / 2回
スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000倍	45日前 / 3回		
ダントツ水溶剤	2,000 ~ 4,000倍	7日前 / 3回	2,000 ~ 4,000倍	7日前 / 3回
テルスター水和剤	1,000 ~ 2,000倍	14日前 / 2回	1,000 ~ 2,000倍	前日 / 2回
ベストガード水溶剤			1,000倍	14日前 / 3回
MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	14日前 / 2回	2,000倍	14日前 / 2回
マブリック水和剤20	2,000倍 ~ 4,000倍	30日前 / 2回	2,000倍	30日前 / 2回
ロディ水和剤	1,500倍	7日前 / 3回	1,000倍	前日 / 2回

薬 剤 名	スモモ	
ダントツ水溶剤	2,000 ~ 4,000倍	3日前 / 3回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍	7日前 / 2回

2) 散布時期および回数

発生に応じて数回散布する。

3) 散布量 : 10 a 当たり 液剤300 ~ 400ℓ